

タイトル 「研究発表 I」

講演者 田中 章夫 様 (株式会社セルクル)

学校名 横浜翠嵐高校

講演テーマまたは研究テーマ 「 交通事故ゼロの方法 」

### 1. はじめに

毎年、日本では約 29 万件の交通事故が発生し、34 万人が怪我をしています。生涯で交通事故に遭う確率は約 4 人に 1 人。これは決して他人事ではありません。では、どうすれば事故を防げるのでしょうか？答えは「注意する」ことではなく、「注意しなくてもすむように環境や行動を変える」ことです。

### 2. 事故の本当の原因

警察のデータでは、交通事故の約 80%が「見えていない」「気づくのが遅かった」という認知ミスが原因です。いくら注意していても、相手が見えていなければ事故は起きてしまいます。つまり、対策は「見える場所に位置する」ことなのです。

### 3. 自転車はどこを走るべき？

#### 歩道を走る場合

- 見えてから止まるまでの距離が長い
- 必要な速度：時速 7km 以下（歩くより少し早い程度）
- 学校に着かないので現実的ではない

#### 車道左側を走る場合

- 見えてから止まるまでの距離が短い
- 必要な速度：時速 20km 程度
- 自転車の平均速度（時速 22km）であれば間に合う
- 「邪魔＝しっかり見られている＝安全」

出会い頭事故に比べ、背後からの追い越し事故は 1/10 以下のデータもあります。

### 3. 交差点での重要なルール：一時停止

見晴らしが良くても、必ず一度完全に止まってください。

人間は単純作業でも 1000 回に 3 回ミスします。毎日同じ道を往復すると、1 年間に約 400 回の判断をすることになり、1 年に 1 回は判断を誤る可能性があります。

「車が来ているか判断する」のではなく、「必ず止まる」という判断そのものをなくすことで、ゆっくり交差点に入ることができ、相手が回避しやすくなります。

### 4. ヘルメットを被る理由

- 自転車事故で亡くなった方の 99%がヘルメット非着用
- 致命傷は頭部が 67%を占める
- ヘルメット着用者の死亡率は非着用者の約 1/4

約 75%の命が助かる可能性があります。「努力義務」ではなく、必ず被ってください。

### 5. まとめ：事故ゼロの方法

交通事故を防ぐ 2 つの対策：

1. 車道左側を走る → 見える場所にいること
2. 一時停止を守る → 見えない場所から見える場所に出るときは必ず止まること

「注意する」のではなく、「見える環境を作り、確認する行動を習慣化する」 - これが本当の交通安全です。